

# きずな便り

## 成年後見 見直しへ 「不適切」でも交代困難

利用が伸び悩む成年後見制度の見直し論が、法制審議会で始まることになった。後見人が強い権限を持ち、不適切な行為が疑われても交代が難しいとされ、利用者の支援に当たる福祉関係者は「不透明だ」と批判する。一方で後見人のなり手不足の現状もあり、制度面での課題は山積みしている。高齢化が進む中、抜本的

な改善に向けた検討が急がれる。

現行では、後見制度を利用すると事実上亡くなるまで中止できない。弁護士らの専門職には報酬支払いが必要で「負担が重い」との声がある。法制審では、一定の期間や、相続の取り決めなどライファイブの完了時点で利用を終了できる仕組みの導入を検討する。

後見人を決める家裁の判断にも疑問の声が上がっている。顔も知らない弁護士を後見人に選任したケースは少なくないと指摘する。本当は心が通じ合った支援者が就くべきだとの意見も根強くある。

団塊世代が75歳以上となる2025年には、認知症の人が700万人前後になるとの推計がある。後見制度の利用は22年度末で24万人余りにとどまる。知的・精神障がい者を合わせると支援が必要な人は一千万人を超える。

一般社団法人  
シニア総合サポート  
HP:senior-support.net  
本社(奥州市)  
TEL:0197-47-3995  
FAX:0197-47-6815  
盛岡・東北事務所  
TEL:019-681-2845



とみる専門家もおり、制度を利用しやすくする改正は喫緊の課題だ。別の関係者によると、福祉の現場では「資産のない独居高齢者が、専門家に『報酬がもらえないなら後見人になれない』と断られた」などと制度を利用できずに行き場を失う人が既に存在する。「報酬があっても少額で、後見人に手を挙げる弁護士や司法書士は少ない」となり手不足を指摘する声はやまない。

法制審ではこのほか、自筆の場合は本文の全文手書きが義務付けられている遺言に代り、パソコン入力などデジタル方式で作成することを認める制度見直しを諮問する。

## 日本で一番多い心の病・依存症(Ⅱ)

人口の推定10%がスマホ依存症の日本は「実は依存症天国」だった

依存症は「意思が壊される病気」なのできちんとした治療をしないと克服することはできません。ということで依存性が強く、それが社会生活に影響を及ぼすと考えられる薬物や行為については、多くの場合、かなり強い規制がかかります。ただ、日本を含めて、ギャンブルを完全に禁止する国はそんなにありません。規制を守ったらギャンブルを認めるという国が比較的多いようです。その規制は明らかに依存症を意

識したものです。ひとつは、その国の人口密集地や中心地から離れたところで原則的に許可するかどうかです。アメリカならラスベガス、中国ならマカオ、フランスならモナコ(別の国になる)という具合です。これくらい普段住んでいるところから離れていると、ちょっとした行けませんから依存症にはなりにくいというわけです。

## ところが日本では、そのところが緩いために依存症が蔓延しやすくなっています。

パチンコホールは、多くの人の家の近所にあり、しかも毎日開店しており、朝から晩までやっていきます。これでは依存症になり易いのは当然のことです。これは、ほぼ世界の例外と言ってもいい状態です。



以前は、韓国や台湾にも多くのパチンコホールがあったのですが、依存症などが社会問題になり、韓国では、2006年秋にパチンコの換金行為が全面禁止となり、台湾でも台北のような大都市では法によって禁止されています。日本は世界の例外国であると同時に、世界で一番ギャンブル依存症になりやすい国となっています。実際、人口当たりのギャンブル依存症の割合は、一般的な先進国

の4~5倍程度とされています。

また、アルコール飲料のCMが日常的に流されているのは、先進国の中で日本だけになっています。アルコール依存症についても日本は危険な国です。

2010年5月にWHOの第63回世界保健総会で「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」が承認され、日本も参加しています。そこには、「マーケティングの強い影響力、とりわけ青少年に対する強い影響力を弱めることは、アルコールの有害使用を低減させるための重大な検討事項である」と謳われています。このような流れの中で、ビールだけでなく、焼酎やウイスキーなどのアルコール飲料のCMがテレビで日常的に流されているのは、先進国では日本だけになっています。アメリカでは、ウイスキーのような蒸留酒のテレビCMを禁止しており、ビールやワインなどについては、人が飲んでいるシーンを出さないという自主規制が存在します。フランスやスウェー

デンでは、殆どのアルコール類のテレビCMを禁止しており、そのほかの国でも蒸留酒のCMは禁止状態になっています。日本も自主規制(これはアルコール飲料会社の自主規制です)がありますが、午後6時以前にはCMをやらせない、未成年向け番組でのCMはしないという程度です。そして当たり前のように有名芸能人がおいしそうにビールを飲むシーンが日常的に垂れ流されています。



いろいろなことを考えると、日本にこんなに依存症が多いのは、むしろ当たり前のように思えます。そうでなくとも日本に依存症を増やしたのが、スマホの普及とマーケティングです。

先に、パチンコ店はあくせがいよいよ、朝から晩までやっているから依存症になり易いと述べました。しかし、もっと怖いのがスマホです。パソコンでゲームをする場合、家に帰ってやら

【表面より続】

ないといけないのに対して、スマホのゲームであれば、満員電車の中でも枕元に置いて寝る直前まで続けられます。かつて、ネット依存やネットゲーム依存が問題になった時に、職場のパソコンを使って、仕事でゲームがやめられない人たちが問題になりました。現在では職場や学校の教室で、スマホをデスクの上に置いていたりなどという光景は当たり前に見られるようになっていきます。

以前からネットゲームでは、そのゲームにユーザーがはまった場合、先に進むために課金したり、自身のアバターに着せる衣装などを買ったりするので、そこからゲーム会社の利益が発生します。そのため各ゲーム会社や運営会社は、日夜「はまる」ゲーム開発に動いているのです。



更にスマホの場合、ゲームだけでなく、LINEなどの「つながり依存」のような状態が存在する

このことです。NTTドコモのモバイル社会研究所の調査によると、2022年のスマホ・ケータイ所有者の10代の94%、20代の91.4%がLINEを利用しており、全体では8割以上が利用しているとのこと。LINEの返事をチェックするため、ゲームをやら

ない人でも当たり前になり、四六時中、スマホを見たり、操作したりする(授業中、仕事でも)。そうしないと不安だとすると、既に依存症になっていると言えらるのです。それを周囲の人も本人も依存症と自覚しないのがLINE依存の怖いところと言えます。

いづれにせよ、スマホの普及はそうでなくとも依存症の多い日本で、どこを刺すように依存症を蔓延させました。まさに依存社会に突入してしまっただけです。このような状況で、特に未成年のお子様がいっぱいいる親御さんたちが、我が子がスマホ依存症とならないための対応はどのようなか?大変気になります。

# 藤井壮太七冠も学んだ「モンテッソーリ教育」とは(Ⅲ)

## モンテッソーリ教育の理念

「モンテッソーリ教育」は生き方そのもの。モンテッソーリ教育といえは、一般的に幼児教育方法として知られています。確かに最初のころのモンテッソーリの学校は、7歳以下の子どもたちを対象に発展してきましたが、現在では乳児から高校生までのすべての年齢の子ども達に教育が提供されています。そこそこその基本理念には、学校の枠を超えて家庭や職場など、さまざまな場所で活用できる考え

方も含まれています。

### モンテッソーリ教育の基本原則

#### 1・一貫性を持つ

リーダーとして子どもに明確に指示を示し、お手本になってください。子どもが限界を超えた行動をとった時には、毅然とした態度で、ふさわしい行動をとれるようにします。

#### 2・互いを尊重する

言い間違いや失敗を、子どもが恥ずかしいと思わないようにしましょう。目の前の子どもが大人になった様子を想像しながら、尊敬の気持ちと優しさを持って話をする事で、子どもの能力を最大限に引き出せます。

#### 3・個性を認める

子ども一人ひとりの考え方が違うのはもちろん、状況に応じて見かたや反応の仕方も変わることがあります。あなた自身や他の子どもと比べたりせず、その子ならではの個性を大切にしましょう。

#### 4・秩序感を育む

子どもが論理的に考え、段取りよく物事を進めるために、大人が穏やかな気持ちでいる事や秩序感

を持つことが大切です。ルーティンがあり、物が整理整頓された家庭は、秩序感を育むのに役立ちます。

#### 5・ほめるよりも励ます

ほめ続けることは、外的承認を与えるに過ぎず、子どもは褒められるために行動するようになりません。一方、励ましは子どもが努力を怠らないうえ、努力や選択が大事だと伝えることに繋がります。



#### 6・内発的な動機を高める

正しい行動を教える際は、大人がお手本になるだけでなく、子どもの良い行動を認めて感謝を伝えると、自然と正しい行動をとるようになります。「これが私たちのやり方」という行動を、習慣化させましょう。

#### 7・限られた範囲で自由を与え

子どもたちの自立や自己規制力を育むために、ある程度自由に動いたり、自分でやりたいことを選

んだりできるような環境を作ってください。ただし、安全ではっきりとした自由の範囲を示すことが重要です。

#### 8・学び続けられるようサポートする

子どもには答えを教えるのではなく、効果的な質問をするようにしてください。学び方を習得し概念を理解するようになるので、深く創造的に考えられるようになり、「生きる力」が育まれます。

#### 9・自立性を育む

子どもたちが身体能力、知性、社会性を身につけられるように手伝うことも、大人の大切な仕事です。目指すのは、社会の若い一員として、大人と並んで活躍できるような子どもたちを育てることです。

#### 10・気品と礼儀を身につける

子どもたちがきちんと他人に敬意を示し、人を傷ついたり、自分自身や他人に恥をかかせたりしないようにすることが大切です。そのためには、子どもたちが礼儀や所作、マナーを身につけることを援助します。

#### 11・責任感を育む

大人が自分の行動に責任を持ち、子どもの失敗は学びの機会だと捉えられるような心理的に安全な場所を提供することが大切です。こうすることで初めて、子どもも自分の行動に責任を持てるようになります。

ここに書かれているモンテッソーリ教育の教育原則は、家庭でも適用されます。これを取り入れることがモンテッソーリ教育の理念に基づいた家庭生活を始める一歩となり、親は楽になり子どもは伸びる!ことでしょうか。人生のスタートから適切な刺激と心の支えがあれば、子どもたちの可能性は最大限に広がります。(家庭でできるモンテッソーリ教育:実践的子育てガイドより)

懇和会での質問に対する留意すべきポイントの対応編があります。ご要望があれば参考に送付いたします。ご希望の方はご連絡願います。

シニア・総合・サポート  
0197-47-5995  
担当:菊地

